

平成 27 年度研究チーム中間報告（第 1 回目）

国家を超えた女性の移動と国家、国家間関係の変容

No. 131 研究幹事：安武留美（文学部）

本研究の目的は、国家を超えた女性たちの移動が、社会、国家、国家間関係の変容とどのように関わってきたかを、5名のメンバーがそれぞれの研究に関連付けて考察しようとするものである。古くから、女性たちは移動し、移動先で様々な活動に従事してきた。その主体的活動は、移動先での多様な勢力とのせめぎ合いや連帯を通して、移動先のまた移動元双方の社会規範、制度、人間関係の変容に寄与してきた。本研究は、女性たちの移動によって開拓された民族・国家的背景の異なる女性たちの交流の最前線に注目しながら、女性の移動が、社会や国家、また国家間関係の変容とどのように関わってきたのかを考える。例えば、何が女性たちを移動させたのか、その移動によって始まった異文化間交流はどのように各地のジェンダー規範を変容させたのか、ジェンダー規範の変容は女性の地位や福祉の向上をもたらすものだったのか、さらには、女性たちの主体的移動や活動は新たな国家や国家連帯に関わる意識や組織の誕生とどう関わってきたのかなどの問題について考えていきたい。

2015年度は、各自で研究活動を行いながら、一つのチームとしてまとまるためにお互いの接点を見出すための努力を行った。ヨーロッパに目を向ける小西は独自に日本やオランダの研究者と連携しながら文献収集を行った。一方、アメリカおよび太平洋地域を研究対象とする Leong, Wu, ハヤシ、安武は、有志でパネルを組み、8月及び1月に行われた国際学会で研究成果の報告を行うとともに意見交換の機会を持った。

有志の参加した8月の国際会議は、International Federation for Research in Women's History (IFRWH)が、中国済南市で開催された the 22nd International Congress of Historical Sciences に連携して “Women and Modernity” をテーマに掲げて実施したものである。Leong, Wu, ハヤシ、安武が “Trans-Pacific Subjects and the Modern State” というタイトルでパネルを組んだ。研究成果の報告は、Wu が初の米国有色人女性連邦議員である Patsy Takemoto Mink の中国訪問について、ハヤシが第二次世界大戦中のアジア系アメリカ人女性諜報員の登用について、安武が二重国籍を回避するための日本国籍離脱をめぐる白人女性と日系人指導者の協力関係について行った。さらには、それらの報告に対する討論者を Leong が務め、環太平洋地域における女性たちの移動が近代国家や国家間関係のあり方とどのように関わってきたのかについて議論した。

また、1月には、米国アトランタ市で “Global Migrations: Empires, Nations, and Neighbors” を大きなテーマで開催された the 130th Annual Meeting of American Historical Association において、Leong, Wu, 安武が、他の3名の日米の研究者とともに、“Gendering the Trans-Pacific World: Diaspora, Empire, and Race” というタイトルのパネルに参加した。上述の会議では討論者を務めた Leong が、第二次世界大戦中先住民居留地に強制収容された日系人とその居留地に隔離されていた先住民との比較、また

その相互関係についての研究成果を報告した。さらに、このパネルでは、環太平洋地域における人種的偏見と人の移動のみならず、植民地主義の台頭や戦争によって加速した人の移動とコリアンおよびフィリピン系女性たちの体験についても報告があり、多様な人の移動あり方やそれに伴う人間・社会・国家関係の変容の複雑さと重層性が浮き彫りとなった。

2016年度は、チームの連携および研究成果をさらに深め、2017年度の集大成としての叢書の出版に備えたい。